

保育実習後の実習報告会が学生の成長に及ぼす影響

著者	久松 尚美, 小澤 拓大
雑誌名	宮崎学園短期大学紀要
号	10
ページ	175-188
発行年	2018
URL	http://id.nii.ac.jp/1106/00000685/

保育実習後の実習報告会が学生の成長に及ぼす影響

久松 尚美 小澤 拓大

The effect of nursery practicum report meeting on student development

Naomi HISAMATSU Takuhiro OZAWA

要約： 本論では、平成 28 年度に実施された実習報告会の概要とねらい(効果)について論じた。実習報告者(2 年生)に対しては、①「実習の振り返りの促進」②「実習内容に対する新たな視点の獲得」③「他の学生の報告を聴講することによる、新たな知識・視点の獲得」④「自身の次の目標・課題の明確化」⑤「実習報告による自信向上」⑥「他の学生の頑張りを聴くことによる、意欲向上」⑦「報告会で得た視点や知識の自身の保育における応用」を、聴講者(1 年生)に対しては①「実習についての理解向上」、②「次の実習に対する不安軽減」③「次の実習における目標設定がしやすくなる」④「次の実習準備内容の明確化」⑤「報告会で得た知識の次の実習における応用」⑥「次の実習に対する意欲の向上」を期待していた。効果検証の結果、期待していた効果がみられたことが示された。

I. はじめに

保育者養成校に在籍している学生の多くが保育士資格や幼稚園教諭免許状の取得を目指し、必要単位を取得しながら実習を積み重ね、保育者として社会に巣立っていく。短期大学の場合は、2 年間という限られた期間の中で専門職としての知識や技術を身に付けることが求められている。近年、子どもを取り巻く社会情勢の変化にともない保育士不足が深刻な問題として取り上げられる一方で、保育者の質の向上も課題とされている。このような状況の中、学生たちは養成校を卒業し社会に巣立っていくこととなる。筆者は養成校の教員として、学生たちが 2 年間という限られた在学期間の間に保育における実践力を身につけ、在学中に自分自身の成長を実感し、更なる課題や目的を持って保育現場にて活躍して欲しいという思いで指導にあたっている。そして、指導を行う中で、保育における実践力や自分自身の成長の実感、次なる課題を得る場として、実習が大きなチャンスでもあり分岐点であると感じている。

II. 本学の実習と実習指導

本学における保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状取得のための実習は、①教育実習(基本実習・附属幼稚園：1 年次 11 月上旬)、②保育所実習(保育実習 I a：1 年次 2 月下旬～3 月上旬)、③教育実習(2 年次 5 月下旬～6 月上旬)、④施設実習(保育実習 I b：2 年次夏季休業中)、⑤保育所実習(保育実習 II：2 年次 11 月)、⑥施設実習(希望者のみ)(保育実習 III：2 年次 11 月下旬～12 月上旬)となっている。その他、入学して間もなくの 1 年次 5 月には、保育所と施設におい

てそれぞれ1日ずつ見学実習を経験し、長期休業中には幼稚園・保育所・認定こども園・施設にて、学生自らがアポイントを取って体験実習を行なっている。

これらの実習がより良いものとなるように、本学の実習担当教員は様々な取り組みを行ってきた(e.g., 佐々木・久松, 2016; 久松, 2016; 久松・佐々木, 2015; 大坪・小澤, 2017)。その中で、久松(2016)は、②保育所実習(保育実習Ⅰa)において、自己の姿を客観性をもって冷静に振り返り、適切な今後の目標を立てることが、⑤保育所実習(保育実習Ⅱ)における成長をもたらすことを示した上で、実習報告会の実施の有効性について論じている。

Ⅲ. 実習指導の開催に向けて

久松(2016)を受けて、筆者は他の実習担当教員と⑤保育所実習(保育実習Ⅱ)後の実習報告会について協議を重ねてきた。今までも、各実習事後指導において、実習の振り返りは行っていたが、2年間の学修期間および在学生の多さ(1学年約200名)という制限から、十分な時間をとることは難しかった。また、振り返りの内容は、数名の他の実習生と共有したり、書面にて指導教員に提出したりすることはあったものの、実質的には個人の中だけで完結していた。他の実習生に実習内容を報告したり、他の実習生の実習内容を聴講することで、新たな気づきが生まれたり、学びが深まることも考えられるであろう。このような期待をし、実習報告会を企画した。実習報告会の概要とねらいは以下の通りである。

【概要】

日時：12月6日・12月13日・12月20日・12月21日

参加者：2年生(実習生)207名と1年生190名

当日までの流れ：

1. 実習前指導における実習報告会の予告と説明(10月25日)

保育所実習(保育実習Ⅱ)の実習前指導において報告会の予告をし、「保育実習Ⅱでの学び～報告会に向けて(①実習先の概要、②実習の目標・課題、③実習前の準備、④実習内容、⑤子どもから学んだこと、⑥先生方から学んだこと、⑦先生方からいただいた具体的なアドバイス、⑧研究保育の内容、⑨研究保育を通して理解したこと・気づいたこと、⑩後輩に伝えたいこと、⑪今後の課題)」の記入用紙を配布し、実習が始まる前、及び実習中にその都度該当する項目に書き足していくよう指導する。

2. 実習中の取り組み(11月4日～11月17日)

実習生は、実習中に「保育実習Ⅱでの学び～報告会に向けて(④実習内容、⑤子どもから学んだこと、⑥先生方から学んだこと、⑦先生方からいただいた具体的なアドバイス、⑧研究保育の内容、⑨研究保育を通して理解したこと・気づいたこと)」の該当する項目にその都度記述する。

3. 実習後の実習報告会に向けた準備(11月22日～12月5日)

実習生は、実習中に記入した「保育実習Ⅱでの学び～報告会に向けて」や保育日誌、指導案等に基づき、「保育実習Ⅱ実習報告書」の清書を作成する。質疑応答を含め8分間の報告時間において、どのような内容を口頭で伝えるか検討する。

4. 2年生のみの実習報告会の開催(12月6日・12月13日・12月20日)

2年生約200名を実習地域別に10グループに分け、1グループを20名程度で構成する。司会役を2名、タイムキーパー役を1名とし、他の実習生の前で報告を行う。報告

時間は質疑応答を含め 1 人 8 分とする。授業時間の関係から、2 年生の実習報告会は 3 回開催する。

5. 1・2 年生合同実習報告会の開催 (12 月 21 日)

上記実習地域別で構成された 2 年生のグループに同じ地域の 1 年生を加え、1 グループを 40 名程度で構成する。2 年生のみの実習報告会の報告者の中から、6 名が代表して、1・2 年生合同実習報告会にて報告をする。時間は質疑応答を含め 8 分とする。

【ねらい】

○2 年生 (実習生) に対しての効果

①実習の振り返りの促進

報告内容をまとめる中で、再度記録用紙や保育日誌、指導案等に目を通すことで、実習で実践した保育内容の振り返りが促進されることを期待した。

②実習内容に対する新たな視点の獲得

報告内容をまとめる中で、実習中や実習直後には気づけなかった新たな視点を獲得することを期待した。

③他の学生の報告を聴講することによる、新たな知識・視点の獲得

他の学生の実習への取り組みやいただいたアドバイスを聴講することで、新たな知識・視点を獲得することを期待した。

④自身の次の目標・課題の明確化

上記①～③を通して、自身の次の目標・課題が明確になることを期待した。

⑤実習報告による自信向上

自身の実習内容を報告する中で、他の実習生からの質問に答えたり、実習内容に対して称賛を得たりすることで、自信向上に繋がることを期待した。

⑥他の学生の頑張りを聴くことによる、意欲向上

他の実習生の実習内容を聴講することにより、それが刺激となり意欲が向上することを期待した。

⑦報告会で得た視点や知識の自身の保育における応用

報告会で得た視点や知識が自身の保育に応用されることを期待した。

○1 年生に対しての効果

①実習についての理解向上

2 年生の実習内容を聴講することで、今後、自身が取り組む実習内容についての理解が深まることを期待した。

②次の実習に対する不安軽減

今まで未知であった実習内容を知ることにより、また同世代の 2 年生が実習をやりきったことを知るにより、実習に対する不安が軽減されることを期待した。

③次の実習における目標設定がしやすくなる

2 年生の実習内容を聴講することで、今の自分に足りていないこと、取り組むべきことが明確になり、目標設定がしやすくなることを期待した。

④次の実習準備内容の明確化

2 年生の実習内容を聴講することで、実習に向けて準備すべき点が明確になることを期

待した。

⑤報告会で得た知識の次の実習における応用

実習を終えた先輩から直接話を聴くことにより、実習報告会で得た知識を自身の実習に応用したいと意識が向上することを期待した。

⑥次の実習に対する意欲の向上

実習を終えた先輩から直接話を聴くことにより、次の実習に対する意欲が向上することを期待した。

IV. 実習報告会の効果検証

以上の概要で、平成 28 年 12 月下旬に実習報告会を行った。今後の実習報告会の改善に向けて実習報告会の効果検証（上記のねらいが達成されているか）を行った。

【方法】

効果検証は質問紙調査によって行った。2 年生に対しては、2 年生のみの実習報告会が終了した 3 回目の報告会終了後に、1 年生に対しては 1・2 年生合同実習報告会後に、実習報告会の効果を検証する質問紙の回答を求めた。具体的には、それぞれの学年で、上記のねらいが達成されているかを検証するための質問項目への回答を求めた（使用した質問紙は付録参照）。

○質問項目（対 2 年生）※括弧内は図 1 の項目に対応

下記の質問に対し、「とてもあてはまる」、「あてはまる」、「あまりあてはまらない」、「全くあてはまらない」のいずれかで回答した。

①「実習の振り返りの促進（省察促進）」

問：自分自身の実習における学びや実践した保育について、振り返る良い機会となった。

②「実習内容に対する新たな視点の獲得（視点獲得）」

問：実習中及び実習直後には気づかなかった、自身の実習内容に対する新たな観点（評価できる点・改善点）が見つかった。

③「他の学生の報告を聴講することによる、新たな知識・視点の獲得（聴講効果）」

問：他の学生の報告を聴くことで、自分の限られた実習体験では得られない知識・視点を獲得できた。

④「自身の次の目標・課題の明確化（課題明確）」

問：報告会を通して、自分の次の目標・課題が明確になった。

⑤「実習報告による自信向上（自信向上）」

問：実習報告を行うことで、自分の保育に多少なりとも自信がもてた。

⑥「他の学生の頑張りを聴くことによる、意欲向上（意欲向上）」

問：他の学生の頑張りを聴いて、自分も頑張ろうと思えた。

⑦「報告会で得た視点や知識の自身の保育における応用（知識応用）」

問：報告会を通して得た新たな視点や知識を、自分の保育に活かしたいと思うようになった。

加えて、上記以外の効果も検討するために、自由記述欄を設けた。

○質問項目（対1年生）※括弧内は図2の項目に対応

下記の質問に対し、「とてもあてはまる」、「あてはまる」、「あまりあてはまらない」、「全くあてはまらない」のいずれかで回答した。

①「実習についての理解向上（実習理解）」

問：実習内容や実習での学び、実践した保育内容を把握したことで、実習について理解できた。

②「次の実習に対する不安軽減（不安軽減）」

問：実習内容を聴くことで、保育実習 I a に対する不安が軽減された。

③「次の実習における目標設定がしやすくなる（目標設定）」

問：先輩達の話聴くことで、保育実習 I a における自身の目標設定がしやすくなった。

④「次の実習準備内容の明確化（準備明確）」

問：保育実習 I a に向けて準備することや今から取り組んでおいたほうが良いことが明確になった。

⑤「報告会で得た知識の次の実習における応用（知識応用）」

問：報告会で得た知識を保育実習 I a に活かしたいと思った。

⑥「次の実習に対する意欲の向上（意欲向上）」

問：先輩達の話聴くことで、保育実習 I a に対するやる気が高まった。

加えて、上記以外の効果も検討するために、自由記述欄を設けた。

○回答者と使用データ

回答者は2年生が207名、1年生が190名であった。回答に不備のあるデータを削除したところ、2年生では205名分のデータ、1年生では188名分のデータを用いることになった。

【結果と考察】

「2年生に対する効果」

○各質問項目の得点

各質問項目の回答を得点化した。具体的には、「とてもあてはまる」を4点、「あてはまる」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「全くあてはまらない」を1点とした。得点が高い程、各項目で想定している効果がみられたことを示す。

次に、各項目の平均値を算出した(図1)。図1より、いずれの項目も、3点(あてはまる)よりも大きな値となったことから、上記の①～⑦の効果がみられたと考えられる。

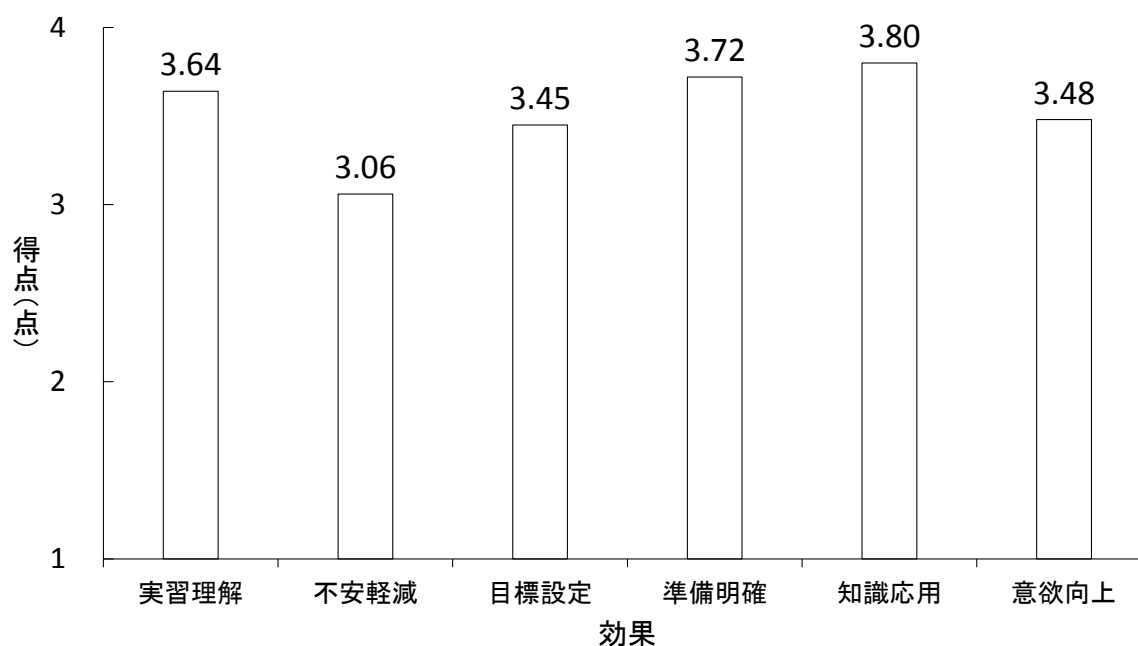


図1. 各得点の平均値(2年生に対する効果)

○自由記述の回答1

自由記述を上記①～⑦の効果に対応させ分類し、回答数を出した。括弧内の個数は、対応する自由記述の数を示す。

①「実習の振り返りの促進(省察促進)」(96個)

例：「発表の準備として日誌を振り返ったり、何をしたか考えたりして、改めて実習をしての感想や反省点を持つことができた。」「自分の実習でのことを話すことにより、再び自分を振り返るという機会にもなった。」「報告会に向けてまとめる中で、日誌を振り返ったり指導案を見返し、実習について振り返ることができた。」

②「実習内容に対する新たな視点の獲得(視点獲得)」(60個)

例：「実習最中では向くことができなかつた視点に目を向けて物事を考えることができ、良い機会となった。」「指導でも最初に言われた時には気づかなかつた意味等に振り返って気づいたり、他の学友の発表を聞いたりして気づくことができた。」「自分の実習を振り返り、更なる改善点、課題をみつけることができた。」

③「他の学生の報告を聴講することによる、新たな知識・視点の獲得（聴講効果）」（156 個）

例：「エピソードや研究保育での工夫を聞くことで、自分とは違った視点での考え方や工夫の仕方に驚いたり納得したりした。」「他の人が体験して思ったこと、気づいたこと、いただいたアドバイスなどを聞いてとても参考になった。」「他の人の反省や改善点を聞くことにより、自分に必要なことや参考にすべきことがわかった。」

④「自身の次の目標・課題の明確化（課題明確）」（33 個）

例：「報告をしてみて自分の課題が明確になり、より自分を深く見つめることができた。」「自分の実習内容を改めて振り返ることで反省すべきところ、これからの課題も明確になった。」「自分の実習報告を通して、他の学生の報告も含めて目標を明確にすることができた。」

⑤「実習報告による自信向上（自信向上）」（5 個）

例：「報告を行ったことで、自分の保育に少しだけ自信をもつことができた。」「報告会を通して自分の実習を振り返る良い機会となり、自分の保育への自信にもつなげることができた。」「私たちが確実に保育者として成長していることも改めて実感することができ、自信を持つことができた。」

⑥「他の学生の頑張りを聴くことによる、意欲向上（意欲向上）」（31 個）

例：「他の人の実習での頑張りが発表から分かることがあったので、これから先に活かせるよう頑張りたいと感じた。」「自分と同じような夢を持ち、実習を頑張った学生の報告会を聞き、高め合いもでき、改めて頑張ろうという気持ちになることができた。」「他の人の報告を聞くなかで、1 人ひとりの頑張りが伝わってきて、大変なのは自分だけじゃない、みんな頑張っているから私ももっと頑張らなければと思った。」

⑦「報告会で得た視点や知識の自身の保育における応用（知識応用）」（79 個）

例：「報告会で学んだことや参考になったことを、今後就職してから自分が保育を行う時に取り入れていきたい。」「みなさんの報告を聞いて、ぜひ自分の保育にも活かしていきたいと強く思った。」「参考になることや、私もやってみたいと思うことがあり、4 月からの励みや良いアドバイスになった。」

自由記述の結果からも、実習報告会が①～⑦の効果をもたらしたことが示された。

○自由記述の回答 2

①～⑦の効果への対応はなかったが、以下のような自由記述（効果・感想）もみられた。括弧内の個数は、対応する自由記述の数を示す。

<学びの共有・共感>（6 個）

例：「それぞれの学びを共有できる良い機会になった。」「共感できたり、情報の共有ができたりしたので、とても良い時間だったと感じた。」「実習先はみな違うが、その中で学ん

だことや得たことにおいて共感できることが多くあった。」「このような事があったのかとか共感できるところもたくさんあって自分だけが悩んでいたのではないと思った。」

<成長の実感> (5個)

例：「自分の力として身につけたと思う事ができた。」「それぞれの感想や内容を聞き、全体にも自分自身にも成長できたと改めて感じる事ができた。」「2年間同じように実習してきて、お互いにたくさん学ぶ事ができたのだと実感した。」「実習をすることでわくわくしたり、感動をしたりするのだと思い本当に身についたと思った。」「それぞれ、力を積み重ねてきているのだと実感した。」

<目指す保育士像の再確認> (2個)

「自分の目指す保育士像を考えなおす良い時間となった。」「自分がなりたい保育士はどのような保育士か再度考えることができて良かった。」

<実習報告会(1年次の聴講)の必要性> (5個)

「できれば1年生の時にしてもらいたかった。」「1年生の時に聞きたかった。」「1回目の実習の振り返りがあれば、次の実習に生かせると思う。」「実習のたびにお互いの話しをし、情報共有することでもっと学ぶ幅が広がると思った。」「自分の2年間の積み重ねを形にすることができて、達成感を感じる事ができて良かった。」

<報告会資料に関する提言> (1個)

「研究保育の指導案を見せてもらえると、今後の保育の参考にしたり新たな発見をしたりすることが出来ると思う。」

○1年生に対する効果

各質問項目の回答を得点化した。具体的には、「とてもあてはまる」を4点、「あてはまる」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「全くあてはまらない」を1点とした。得点が高い程、各項目で想定している効果がみられたことを示す。次に、各項目の平均値を算出した(図2)。図2より、いずれの項目も、3点(あてはまる)よりも大きな値となったことから、上記の①～⑥の効果がみられたと考えられる。

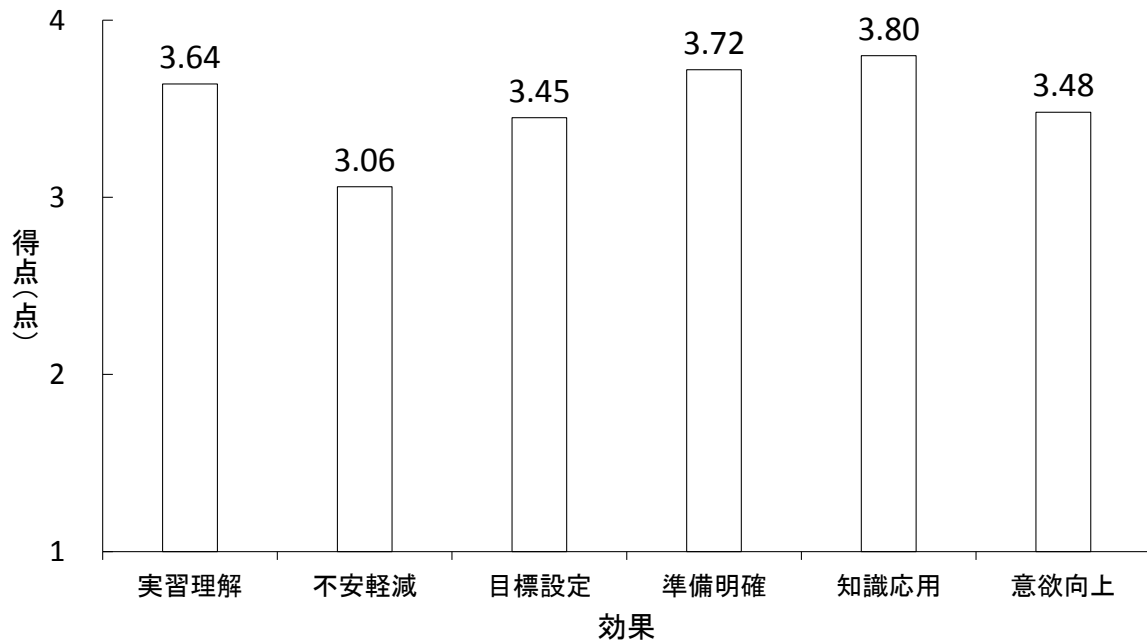


図 2. 各得点の平均値 (1 年生に対する効果)

○自由記述の回答 1

自由記述を上記①～⑥の効果に対応させ分類し、回答数を出した。括弧内の個数は、対応する自由記述の数を示す。

①「実習についての理解向上（実習理解）」(148 個)

例：「実習のことを細かい部分まで聞くことができるとても勉強になった。」「研究保育で使った教材やパワーポイントでの説明があり、事例など踏まえながら話しをしていたのでとても分かりやすかった。」「報告を聴いて、どんな事を準備して、実習中どのような事に着目して学べば良いのか分かり、自分が実習に行く際の事を想定することができた。」

②「次の実習に対する不安軽減（不安軽減）」(49 個)

例：「とても不安だった実習への気持ちが少しは楽になった。」「不安でいっぱいだったが、先輩方が実習中にどんな準備をしたらよいかや、アドバイス・助言をくれたりして少し安心できた。」「実習に対する不安など、今まで自分が感じていたマイナスの部分がプラスに思えたこともあり気持ち的に楽になった。」

③「次の実習における目標設定がしやすくなる（目標設定）」(19 個)

例：「目標の設定内容や設定した理由などを聞いて、こういう目標もあるのだと勉強になる点があった。」「先輩方がどのような目標をもって実習に臨んだのかが分かり、自分はどんな目標をもって臨むか考えやすくなった。」「どのような視点から目標を立てたらよいかが見えてきて、自身の目標も少し見えてきた。」

④「次の実習準備内容の明確化（準備明確）」（87 個）

例：「あらかじめ何をしていたら良いなど、どの先輩も色々アドバイスをしてくれたので、先輩方のアドバイスを基に行動していこうと思った。」「少しは保育内容を理解することができ、今から取り組んでおいたほうが良いことも明確になった。」「手遊びや絵本の読み聞かせ、ピアノ、パネルシアターなど今まで習ってきたことを自分の引き出しとしていつでも取り出せるように準備していこうと思った。」

⑤「報告会で得た知識の次の実習における応用（知識応用）」（93 個）

例：「報告会で学んだことを、これからの実習に生かして自分の成長につなげられるよう努力したい。」「報告者 1 人ひとりの思いがあり、内容も自分もしてみたいというような内容であった。」「先輩方 1 人ひとりの話を聞いて、アドバイスややっておくことなどわかったので、これからある実習に役立てていこうと思う。」「先輩方に聞いたことを参考にして、これからの実習に生かしていきたい。」

⑥「次の実習に対する意欲の向上（意欲向上）」（83 個）

例：「先輩方が話しをしてくれたように、自分から積極的に動いたり、子ども全体を見て実習したりしていきたい。」「先輩方の言葉を聞き励みになり、できることから頑張っていこうと思った。」「先輩方から話しを聞くことですごく心に響いたし、自分にできるかどうか不安は少しあるけど私も頑張ろうという気持ちになった。」

自由記述の結果からも、実習報告会が①～⑦の効果をもたらしたことが示された。

○自由記述の回答 2

①～⑥の効果への対応はなかったが、以下のような自由記述（効果・感想）もみられた。括弧内の個数は、対応する自由記述の数を示す。

<日頃の学びの重要性への気づき>（11 個）

例：「すでに学んでいる 1 つひとつが保育に繋がる勉強をしている事を先輩の話の中から感じることができた。」「短大の授業などで学んだ教材はまとめて取っておくと、実習の時や就職した時に役に立つそうなので、今からでもしっかりわかりやすくまとめていこうと思った。」「『何気なく作ったもの、学んだものを活用する』ということを経験の中で学んだ。色々な教科を受ける中で、そのような視点を持つことでたくさんの保育へと繋がるのが分かった。一つ一つの授業で目を光らせたいと思う。」「まだまだ勉強不足だと自分は思っているので、一つ一つの授業を大切に受けて自分の知識として身に付けておき、生かせるように頑張っていこうと思う。」

<1 年後の成長への見通し・期待>（12 個）

例：「2 年生のこの時期には、先輩方のように自信を持って実習に行けるように、今から頑張っていきたいと思った。」「2 年生のみなさんは堂々としているなということと、今まで多くの実習を重ねるうちにあのような姿になれるのかなと期待した。」「ワクワクして報告会に参加し、司会も学生がしていて、私たちも来年やるのだと思うと真剣に取り組む事

が出来た。」「発表された先輩全員がはきはき堂々と発表していて、後1年後自分もこういう風になれるのかと思うと、これからがとても楽しみになった。」

<報告会の意義・必要性> (5個)

例：「先輩方の実習に対する姿勢がすごく強く伝わり良いと思った。」「実際に経験した生の声が聞けてとても良かった。」「実際に実習を経験し、最後まで乗り越えた先輩方の言葉は1つ1つ私の心に残り聴いていて凄く為になり、自分の一番近い先輩方から話しを聞くことですごく心に響いた。」

<2年生に対する尊敬の念・憧れ> (15個)

例：「保育実習を乗り越えた先輩方の発表は自信に充ち溢れていて、先生らしくなっていてうらやましく感じた。」「先輩方の話しはとても勉強になることばかりで、同じ学生とは思えないくらい上手で、私も努力が必要だと思った。」「先輩たちは実習を行っている回数も多く、行った分だけあって話しを聞きながらすごいと改めて思った。」「発表される方は堂々としており、2年生は雰囲気や聞く態度、質問の仕方も堂々としていてカッコいいと思った。」「やはり先輩方は実習での見る視点が違うなと感じた。授業で習った部分も活かしているし、これまでの経験から考えて行動されていてさすがだなと思った。」「1年しか変わらないのに保育の視点や発表する時の堂々とした姿にまず驚いた。」

<実習後の振り返りの必要性> (2個)

「先輩方の話しを聞いて、実習が終わった後の反省はやはりきちんと行うべきなのだなと思った。自分のどこに納得がいかなかったのかなど、しっかり考えようと思った。」「しっかり反省して次に繋げて行っているのがとても素晴らしいと思った。反省することで、自分の課題が分かり、その反省を活かすことができるよきと良いものができるのだと感じた。」

<報告会に対する提言> (4個)

「報告会を聞き、話すスピードが速すぎてメモが取りたかったけど聞き逃してしまった所もあるので時間をもっと取ってほしい。」「メモをとるには速すぎて、先輩方の報告をまとめた用紙がほしかった。」「聴講して実習に向けての心構えや準備の方法などが分かった。しかし、疑問が残る事もあったので、もう少し意見交換の時間があれば良かったのではないかと思った。」「自分の実習先と同じ所に行った先輩と話す機会があれば良いと感じた。」

V. おわりに

本研究では、久松(2016)を受けて、昨年度実施した実習報告会の概要とねらいを論じるとともに、その効果検証を行った。その結果、1年生・2年生共に、期待していた効果がみられた。報告した2年生にとっては、これまでの実習の集大成として自分自身の実習内容を報告することや他の学生の実習内容を聴講することで、自分自身の実習内容を振り返り、新たな知識・視点を獲得することとなる。今後社会人となり、保育者として成長するための目標を明確にし、継続的な自己の向上を促すことにつながることを期待される。また、1年生にとっては、初めて臨む保

育実習を前に2年生の実習報告会を聴講し、実習内容や事前に準備すべきことが理解できたことで実習に対する不安が軽減し、報告会で得た知識を活かしたいという気持ちや、実習に対する意欲の向上につながることを示された。初めての实習報告会の試みではあったが、実習に向けての前指導及び、実習を終えての事後指導において、今回試みた実習報告会は1・2年生共に効果的であることが示された。実習報告会を通して、2年生から1年生に学びの継承がなされ、より充実した実習内容や質の向上につながるよう、今後とも改良を重ねて継続したい。

引用文献

佐々木 昌代・久松 尚美 (2016). 保育実習における評価の“ズレ”の分析 宮崎学園短期大学紀要, 7, 95-105.

久松 尚美 (2017). 保育実習における実習報告会の試み 日本保育学会第70回大会発表要旨集, 829.

久松 尚美・佐々木 昌代 (2016). 施設実習における評価の“ズレ”の分析 宮崎学園短期大学紀要, 7, 107-125.

大坪 祥子・小澤 拓大 (2017). 実習途中の自己評価チェックシートの有効性の検討 日本保育学会第70回大会発表要旨集, 1173.

付記

本論文の一部は、日本保育学会第70回大会（久松, 2017）にて発表されている。

付録1：2年生に対する質問紙

保育実習指導Ⅱ

平成28年度 保育実習Ⅱ 実習報告会自己評価

保育科2年()クラス 学籍番号() 氏名()

I 〈実習報告会準備・実習報告会について〉 *ボールペンにて記入

「実習報告会に向けて取り組んだこと(準備)」や「実習報告会で報告したこと」、「他の学生の報告を聞いたこと」は、あなたにどのような影響をもたらしましたか？ (評価基準) A:とてもあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない	評価 該当する段階を○で囲む			
	とてもあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
①自分自身の実習における学びや実践した保育について、振り返る良い機会となった。	A	B	C	D
②実習中及び実習直後には気づけなかった、自身の実習内容に対する新たな観点(評価できる点・改善点)が見つかった。	A	B	C	D
③他の学生の報告を聴くことで、自分の限られた実習体験では得られない知識・視点を獲得できた。	A	B	C	D
④報告会を通して、自分の次の目標・課題が明確になった。	A	B	C	D
⑤実習報告を行うことで、自分の保育に多少なりとも自信がもてた。	A	B	C	D
⑥他の学生の頑張りを聴いて、自分も頑張ろうと思った。	A	B	C	D
⑦報告会を通して得た新たな視点や知識を、自分の保育に活かしたいと思うようになった。	A	B	C	D

*実習報告会全般において、上記の評価をつけた理由やその他の感想を記入してください。

付録2：1年生に対する質問紙

保育実習指導Ⅰ・教育実習前後指導

平成28年度 保育実習Ⅱ 1・2年生合同実習報告会

保育科1年() クラス 学籍番号() 氏名()

I 〈実習報告会の聴講・参加について〉 *ボールペンにて記入

「実習報告会の聴講・参加」したことは、あなたにどのような影響を与えましたか？ 〈評価基準〉 A：とてもあてはまる B：あてはまる C：あまりあてはまらない D：全くあてはまらない	評 価 該当する段階を○で囲む			
	とてもあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
①実習内容や実習での学び、実践した保育内容を把握したことで、実習について理解できた。	A	B	C	D
②実習内容を聴くことで、保育実習Ⅰaに対する不安が軽減された。	A	B	C	D
③先輩達の話聴くことで、保育実習Ⅰaにおける自身の目標設定がしやすくなった。	A	B	C	D
④保育実習Ⅰaに向けて準備することや今から取り組んでおいたほうが良いことが明確になった。	A	B	C	D
⑤報告会で得た知識を保育実習Ⅰaに活かしたいと思った。	A	B	C	D
⑥先輩達の話聴くことで、保育実習Ⅰaに対するやる気が高まった。	A	B	C	D

*実習報告会を聴講・参加しての感想を記入してください。
